様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ９ 月 １７ 日現在

機関番号：３２６１４
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2016～2019
課題番号：１６Ｋ０４５６３

研究課題名（和文）幼児の表現に影響を与える描画指導法の検討－自分なりの表現を楽しむために－

研究課題名（英文）Examination of drawing instruction method for children-To get my own expression

研究代表者
島田　由紀子（Shimada, Yukiko）

國學院大學・人間開発学部・教授

研究者番号：８０３６９３９７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：　①幼児の自由画や造形表現の特徴を見出し、指導を行った保育者とその保護者に指導や教育方針等について質問紙調査を行い、描画や造形表現と指導の影響を把握した。描画表現の性差は保護者や保育者の言葉がけが後押しになる可能性が示唆された。②独特な環境構成で造形指導を行う園の活動に着目し、人的環境に加え物的環境が幼児の表現に影響することを把握した。同様な事例をチェコ共和国の各園や小学校にも見ることができた。③保育形態によって造形活動の経験に個人差が生じ、表現にも影響がみられた。
　これらの研究はこれまでの造形表現の研究にはない視点であり、幼児の描画や造形活動のあり方や指導法の再考につながると考えられた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　本研究で行った調査研究は、これまでの幼児の描画や造形表現の研究にはない視点であり、幼稚園や保育所における描画活動や造形活動のあり方について、指導法、環境構成、保育形態などについて再考することができたと考えられる。また、これまでタブー視されてきた描画指導のメソッドも含め、系統立てて検証されてこなかった描画指導法が与える幼児の描画表現への影響について把握することで、幼児の創造的な描画表現や造形表現に有効な指導法について手がかりを得ることができたことから、幼児の一人一人がより自由に描画表現、造形表現を実現するための具体的な方策を示すことが期待できる。

研究成果の概要（英文）：　① I found the feature of the free image of the children. A questionnaire survey was conducted on the teachers and their parents who provided the drawing guidance regarding guidance and educational policies. I was able to understand the effects of drawing and teaching. It was suggested that the sex difference in the drawing expression might encourage the words of parents and childcare workers. ② Focused on the activities of the garden, which teaches modeling in a unique environment. We understood that the human and physical environments influence the expression of infants. Similar cases were found in kindergartens and elementary schools in the Czech Republic. ③ There were individual differences in the experience of modeling activities depending on the type of childcare, and the expression was also affected.
　It is considered that these survey results will lead to a reconsideration of the method of drawing and modeling activities for infants and the teaching method.

研究分野：幼児の造形表現

キーワード：幼児　描画指導　造形指導　保育者　保護者　チェコ共和国　保育環境　保育形態

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

幼稚園や保育所などで行われている造形活動は画一的であり、教師・保育者、専門指導者による一律な指導と、幼児自身に任せた活動との二極化が問題となっている。また、両者に共通する問題として造形活動でも、特に描画指導についてどのようにしどうをしたらよいのか戸惑う教師や保育者が多いことが考えられる。幼児の年齢、性別、環境などによって造形表現には違いが認められており、その違いに応じた造形活動や指導を行った方が良いと考えてはいるが、実際には年齢を中心とした活動や指導が行われている。また、教師や保育者、造形の専門指導者によっては、指示型の指導や描画指導法等のメソッドに頼る造形活動が行われている。

２．研究の目的

本研究では、教師や保育者または造形の専門指導者の描画や造形の指導と、幼児の描画や造形表現への影響を明らかにし、創造的な描画や造形表現を実現するための方策について手がかりを得ることを目的とする。この研究によって、幼児の創造的な描画表現や造形表現に有効な指導法につなげることが期待できる。

３．研究の方法

自由画や造形表現にかかわる作品の収集を行い、幼児の年齢、性別、環境ごとに造形表現の特徴を明らかにする。同時に教師・保育者、専門指導者が実践している指導方法や活動のねらい、幼児の造形活動への考えを把握する。指導法によって、幼児の描画や造形表現に、どのような影響を与えているのか検討する。保護者にも類似の調査を行った。

調査対象は、専門的あるいは特徴的な造形指導を行っていない幼稚園や保育所における幼児や児童の自由画や造形作品の調査と、そのときの指導に関する調査、専門的かつ特徴的な造形指導を行っていると考えられる幼稚園での描画指導の様子や作品に関する調査、また、チェコ共和国（以下、チェコ）における幼稚園や保育所と小学校での幼児や児童の作品の調査と、指導に関する調査を行った。さらに、日本の幼稚園と保育所における保育の形態による特徴的な指導、さらにメソッドによる指導が与える幼児の造形表現への影響について考察する。

４．研究成果

（１）担任による描画指導―自由画

①色彩

先行研究（皆本，1986）に倣い、色彩はクレヨンの 16 色を対象とした。男児の最も少ない使用色数は 1 色で、最も多い使用色数は 15 色、平均は 6.86 色であった。女児の最も少ない使用色数は 3 色、最も多い使用色数は 15 色、平均は 9.41 色であった。男児と女児の平均使用色数に有意な差があるかどうか t 検定を行ったところ有意な差がみられ（$t = -8.49$, $df = 300$, $p<.01$）、女児の多色傾向と男児の寡色傾向が確認できた。女児は「ピンク」、「紫」、「肌色」、「茶色」の使用が多く、モチーフの影響が示唆された。

②モチーフ

男児で多く描かれたモチーフは「自然（木、海、太陽、空、地面、山など、花以外の自然）」44.8%（69 名）が最も多く、次いで「ひと」40.3%（62 名）であった。女児では「ひと」76.4%（113 名）が最も多く、次いで「自然（木、海、太陽、空、地面、山など、花以外の自然）」64.9%(96 名)、「装飾」49.3%（73 名）と続いた。女児の描く「ひと」は、女の子やお姫様、キャラクターが描かれる場合が多く、細かな描写がみられた。男児は何を描いたのか「不明」な割合が女児よりも多かった。女児は他者に伝わりやすい表現である一方、男児は伝わりにくい場合があり、両者に隔たりがみられたことから、描画指導のねらいによっては、幼児の思いに任せたままにするのではなく、男児にはより具体的な指導が必要であることが考えられた。

③構図

皆本（2017）の先行研究から、構図を「横並び型並列表現」「積み重ね型並列表現」「一点拡大」「俯瞰表現」「カタログ表現」に「その他」を加えた６カテゴリの基準を設け「表現の特徴」とし、Alschuler.R.H.&Hattwick.L.B.W.（2002）による「上部集中」「下部集中」「右または左に集中」「中心」「バランスよく」と「その他」を加えた６カテゴリを「描いた位置」として分類し、分析を行った。カテゴリ数でみると、「表現の特徴」の 6 カテゴリでは、男児の最大は 3、平均は 0.82、標準偏差は 0.67、女児の最大値は 4、平均は 1.16、標準偏差は 0.65 であった。男児と女児のカテゴリ数について t 検定を行ったところ、有意な差が認められ（$t=-4.33$, $df=300$, $p<.01$）、女児の該当カテゴリ数が多いことが確認された。「描いた位置」では、男児の最大は 3、平均は 0.66、標準偏差は 0.55、女児の最大値は 2、平均は 0.83、標準偏差は 0.48 であり、性差を確認するために t 検定を行ったところ、有意な差が認められた（$t=-3.09$, $df=300$, $p<.01$）。山田（2018）によると、構図は幼児間で模倣することを指摘しているように、色彩やモチーフに加え構図にも模倣がみられ、特に女児が男児よりも構図において模倣する傾向が強い可能性が考えられた。

④造形教育の専門家からみた自由画の特徴

石川（2006）が幼児や児童の絵の見方として示した 10 項目から、自由画を見る項目としてふさわしいと考えられる「描写力」「自由さ」「主題」「構成」「着想」「技法」に、クレヨンを使った自由画の分析に必要だと考えられる「色彩」を加えた 7 項目について、造形教育の専門家によ

る５点満点による判定により、自由画の特徴を見出すことにした。
　女児の「色彩」は、調査で最も高い平均点であったことから、表現したいことにふさわしいしい色彩の選択がされていると考えられた。「描写力」も女児は伝わりやすい表現であったことが判断できた。郷間・川越・立田・中市・郷間・鈴木・落合（2013）による図形模写や描写力テストで、女児が男児を上回る結果が得られていることから、この時期では発達的にも女児の描写力が高いことが示唆されている。クレヨンのぬり方や筆致、工夫といった「技法」でも、尾崎・古賀・金子・竹井（2010）の報告の中で、女児の方が男児よりも巧みであることが指摘されていることから、女児は描きたい表現に応じた筆致の変化や工夫も得意であることが推測された。一方男児は「自由さ」に特徴的な自由画がみられたことから、概念的な描画とは異なる、自分なりの表現を獲得していることがうかがえた。

（２）保育者の描画指導
　保育者の幼児への関わりが描画表現に影響を与えていることは、池田・新井・遠地・掛（2019）や中尾（2007）によって報告されている。そこで保育者を対象に幼稚園や保育所での幼児の造形活動について質問紙調査を行い、描画指導の実態を把握することを試みた。
　その結果、保育者の多くは幼児の描画には性差があることに気づいているが、それに応じた指導は行ってはいないが、指導では幼児の性別によって異なる場合があることがわかった。また、指導についても性別によって異なる場合もあり、男児には「描くものを実際に見せる」78.6%（11名）、「色のぬり方を教える」71.4%（10名）、「お手本を描いてみせる」64.3%（9名）が上位に、女児では「描くものを実際に見せる」「色のぬり方を教える」「お手本を描いてみせる」がそれぞれ71.4%（10名）であった。女児の多色表現や色彩を効果的に用いることができるのは、保育者の描画指導の影響も示唆された。少数であるが、男児には「かっこよく」女児には「かわいらしく」といった言葉がけもみられた。多くの保育者は「子どもの自主性や子どもの個性を最優先すべきである」と考えており、どの幼児に対しても平等な指導を心がけていることが明らかになった。

（３）家庭での描画、造形遊び
　幼児の発達には保護者の影響、特に母親の影響が大きいことが指摘されている（尾久，2014）ことから、家庭での保護者の幼児への描画や造形遊びを中心とした関わりや教育方針によって、幼児の造形表現に影響すると考えられる。そこで家庭での幼児の描画や造形遊びに関する質問紙調査を行い、実態を把握することを試みた。
　母親の描画の教え方には、幼児の性別や年齢を問わず「お手本を描いてみせる」「何もいわない」が多い。幼児が描いているときの母親の言葉かけは、男児には「かっこよく」「大きく」、女児には「かわいらしく」「きれいに」と伝えていた。保護者は男児には描画遊びによって「静かに過ごすこと」を期待する回答が特徴的であった。家庭では、保護者が無意識に幼児の性別に応じた表現の導きが行われている可能性があり、それが描画に表れることが示唆された。

（４）チェコの幼稚園、保育所、小学校による造形指導
　チェコの幼稚園、保育所、小学校では、園長や校長による保育方針や教育方針によって活動や授業の内容、指導法も異なる。
　幼稚園や保育所では、はさみや絵の具などほとんどの教材はクラスで共有され、個人持ちはほとんどない。一日の中で一斉活動と自由遊びを交互に行う保育形態であったが、一斉に行われる場合も、幼児の気持ちや様子に合わせて活動が展開されていた。予定された時間内に終わらない場合は主担当ではない保育者や園長が個別対応し、幼児のペースで描いたり作ったりしていた。また、どの公立施設でも民間企業からの資金によって施設が整えられており、電子黒板などの設備費にも充てられ、それらのICT機器は造形活動にも活用されていた。
　小学校では、教科別に教師が授業を担当し、児童は教科によって教室を移動していた。図画工作は、低・中学年は普通教室で、高学年は図工室で行われていた。低学年では、画材や用具は児童自身が用意し、特別な画材については教師が用意していた。またICTの活用を積極的に行っており、授業中に児童から質問があれば教師がパソコンを使って回答となる事柄をスクリーンに示し、参考資料となる画像も順次提示していく。個人持ちとなる画材（クレヨンやサインペン）の色数には個人差があるが、必要に応じてたくさんの画材を持っている友達に借りることが日常的に行われているとのことであった。図画工作の授業における教材の準備は、教師の指導と同様に児童の表現に影響すると考える一方で、個人ごとの画材の準備の影響は大きくはない、あるいは必要に応じて友達に借りる、貸すことで補えばよいと考えられていることがうかがえた。
①自由画
　女児の「女の子」「お姫さま」を描く傾向や、男児の「戦う」場面を描く傾向は、日本の結果と類似しているが、男女とも共通して「自然」や「動物」をキャラクター化せずに描いていることが特徴的であった。
②ステッカーによる課題画
　「青・ピンク」を各５枚、「青・黄」各５枚のステッカーによる課題画について調査を行うことで、構図についての特徴を把握しようと考えた。その結果、使用色数の枚数、構図　いずれにも男女差が認められなかった。先行研究の日本の結果（島田・大神，2019）と比べ、男女差が少

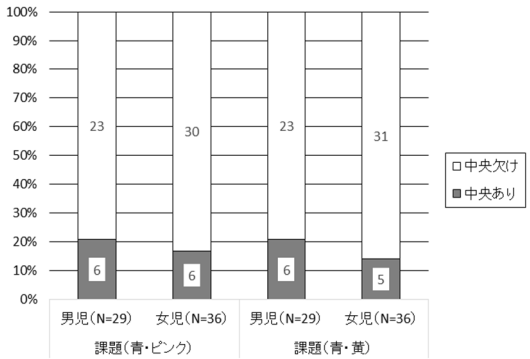

図１　課題別ステッカーの配置

ないことが明らかとなった。また、青、ピンク、黄の 3 色について好きな色を尋ねたところ、男児は、青・黄が好きと回答し、ピンクが少なく、女児はピンクが多く、青・黄が少な　い、という嗜好色の違いが明らかとなった。

③児童による課題作品

　小学生による課題作品について調査を行った。内容はイースター行事に使う仮面の作成である。材料は画用紙、装飾用の羽根やビーズ、スパンコール、ストローなどのほか、児童自身が持参した画材を使用した。

　装飾性の高い課題であるため、華美に表現する傾向があり、色彩は女児が多色による塗り分け、男児は好きな色を多く使う様子がみられた。装飾する課題では、それまで試みることのない材料や色彩の工夫があり、児童自身の表現が広がる可能性が考えられた。

④保育者、教師の造形指導

　保育者や教師に質問紙による調査を行い、幼稚園や保育所、小学校での造形や図画工作の指導の実態を把握することを試みた。

　その結果、保育者や教師は平等な指導を心がけ、描画指導では「具体的に描き方を教える」、「見本を提示する」という回答が多くみられたが、幼児や児童の性別よる指導や活動への期待に違いはみられなかった。調査用紙の欄外への記述が多く、そこには一人一人に応じた指導を心がけていることについて記されていた。

　インタビューでは、描画指導は文字の指導につなげて考えている保育者が多く、線を描く（書く）トレーニングとして行っていることがわかった。また、幼児の性別によって病や造形表現が異なることは認識しており、それに応じた活動の設定や材料の用意をしたいと考える一方で、保護者から平等な指導を強く求められているといったことが明らかとなった。

（５）保育の環境や指導と幼児の造形表現

①独自の環境設定による造形活動

　独自の描画・造形指導を行っている幼稚園での造形活動について把握することで、保育者の指導法による幼児の造形表現への影響を把握しようと考えた。

造形の専門家を置き、独自の環境設定、担任による指導が行われている。幼児が入室する前に、自転車の車輪や大きな板、壁には不定形な布が様々に貼られ、画材は刷毛や絵の具、油粘土やクレヨンなどが用意されていた。幼児は好きな場所で好きな素材や画材と向き合い、描いたり作ったりする。出来上がると保育者に見せ、保育者は評価票に基づいて幼児に確認し評価を行う。そこでは、お姫様を描く女児や昆虫を作る男児もみられず、全員が抽象的で斬新な表現をしていた。保育者の言葉や行為による指導だけではなく、環境による指導によって幼児の造形表現が大きく変わることが示される事例と考えられた。

②一斉活動による造形指導

　公立幼稚園での一斉活動での描画・造形指導について調査を継続的に行うことで、幼児の表現の変化を把握しようと考えた。自由遊びが主だが、すべての幼児に経験してほしい活動は一斉活動で行う学級に着目した。

保育者は、特に描画表現について、描く方法を幼児自身が獲得できるよう、活動の内容を伝え、用具の使い方や表現の方法について複数の教示を行っていた。幼児の遊びや経験を踏まえ、段階を追って表現が広がるような活動内容を設定し、材料を用意していた。

　幼児によっては、描画・造形表現が苦手に思う場合でも試みることができるよう、まずはできた、と幼児自身が実感できるような活動の工夫をしていた。自画像では大きな筆で四つ切の画用紙に思いきり描く、少ない工程で描くよう考えられており、苦手な幼児であっても達成感や満足感が得られることが予想された。また、試行錯誤しながら取り組みたい幼児であっても、色の工夫や描き方を考えることができるような活動であった。

③自由遊びにおける造形活動

　公立保育所での自由遊びを主とした造形活動について継続的に調査を行った。保育者の働きかけにより、自由遊びの中で全員が同じ造形活動を経験できるよう指導を行っていた。

　幼児の主体性を最優先させているため、描画や造形活動の経験時間に大きな差がみられた。好きな遊びを好きなだけできることから、得意なことはさらに深めることが期待できた。手に取る素材についても幼児の気持ちによるところが大きいことから、様々な素材や用具の工夫に挑戦する幼児と、決まった好きな素材と用具に留まる幼児との違いがみられた。描画や造形活動が苦手な幼児は経験する時間が少なくなるため、苦手意識がさらに強まることも推測された。また、同じ保育室内で跳び箱などの動きのある活動とその隣でブロック、おままごと、そして描画活動と区切りのない環境で行われているので、幼児は多種多様の遊びを目にして気持ちのまま遊ぶことができるが、集中した描画活動や造形活動は難しくなるという面もあった。

④メソッドによる描画指導

　酒井式描画指導法の書籍は数多くあるが対象とした研究は少ない。絵画コンクールでは、この

メソッドによる積極的な応募がある。メソッドによる指導に対して教師や研究者に加え、保護者の戸惑いもみられる。
　メソッドによる描画指導では、幼児や児童が描画活動を行う過程で思いついたことを試すことは難しく、工夫や試行錯誤する機会は失われることも考えられる。授業等でメソッドによる描画方法や表現以外は認められにくい、認められない場合もある。幼稚園教育要領や小学校学習指導要領と、メソッドによる描画指導法では目的や製作過程で重視することも異なることが考えられる。また、幼児や児童自身を対象に、メソッドによる描画経験をどのように感じたり考えたりしているのか、といった報告はされていない。

　本研究では、幼児の自由画について特徴を見出し、その描画指導を行った保育者や教師、幼児の保護者に対して描画や造形指導、言葉がけ、教育方針等について質問紙調査を行うことで、幼児の造形表現と保育者や保護者の指導の関りを把握することができた。特徴的なことは、性別による描画の特徴が保護者や保育者の言葉がけの影響による可能性がうかがえることである。また、独自の環境構成による造形指導を行っている園の活動に着目することで、環境構成が幼児の表現に影響することが示唆された。また、保育形態によって描画や造形活動の経験に個人差が生じ、表現の広がりにも影響が示唆されることが明らかとなった。これらの調査研究はこれまでの造形表現の研究にはない視点であり、幼児の描画や造形活動のあり方や指導法を再考につながると考えられた。これまでにない視点で調査を行うことができた。
　幼児の自由画の調査結果からは、年齢による発達と同じように性別も配慮した活動や指導が必要であることが明らかとなった。特に色彩の使用数や使用色、描くモチーフには男児と女児が認められた。幼児の一人一人の表現を大切にするためには、それぞれの表現を尊重する一方、家庭での描画や造形経験とは異なる集団での学びの場ならではの、さまざまな表現や表現方法を知ったり試したりする機会を保育者が積極的に設ける必要がある。チェコの小学校での事例にように、女児が得意とする装飾性が求められる課題を授業によって課されることで、男児であっても装飾的な造形表現を経験し、児童自身の表現する力が広がることが予想される。
　本研究では描画や造形の指導法や言葉がけといった保育者や教師による幼児への働きかけに着目する中で、環境構成によって描画表現が大きく変わることについても把握することができた。また、一斉活動が画一的な指導につながるわけではなく、保育者の見通しをもった造形活動の計画によって、幼児一人一人の表現に応じた指導が可能となり、幼児自身がより自由に表現する力を培うことが可能となると考えられた。
　本研究によって、保育者や保護者の指導や言葉がけに加え、指導計画や環境構成が幼児の描画や造形表現に影響を与えることが考えられたことから、今後は保育者の幼児への直接的な指導、指導計画、環境構成及び教材・用具と、幼児の描画や造形表現について調査分析を行うことで、幼児の描画や造形表現に有効な指導のあり方について検討することを課題としたい。

引用文献

Alschler R.H, Hattwick L.B.W. (1969) （アルシュラーR.H,ハトウィック.L.B.W. 島崎清海(訳)(2002)子どもの絵と性格, 文化書房博文社）
郷間英世・川越　奈津子・立田瑞穂・中市悠・郷間安美子・鈴木万喜子・落合利佳（2013）最近の子どもの描画発達の男女差についての検討, 京都教育大学紀要, 122, 101-109.
池田吏志・新井馨・遠地千智・掛志穂（2019）幼稚園における遊びを取り入れた「表現」に関する実践的研究 小学校図画工作科「造形遊び」との共通性を踏まえて, 学校教育実践学研究, 25, 31-38.
石川秀也（2006） 子どもの絵　よさをよみとる 100 事例, ジアース教育新社, 20-21.
皆本二三江（1979）幼児の嗜好色を中心とした造形表現の性差に関する文献比較, 武蔵野女子大学短期大学部幼児教育研究集録, 1, 89-97.
皆本二三江（1986）絵が語る男女の性差　幼児画から源氏物語絵巻まで, 東書選書, 47-120.
皆本二三江（2017）「お絵かき」の想像力　子どもの心と豊かな世界, 春秋社
中尾美千子（2008）幼児の表現を育てる保育者の役割　絵画表現を通しての一考察, 関西女子短期大学紀要, 17, 33-48.
中尾美千子（2008）幼児の表現を育てる保育者の役割　絵画表現を通しての一考察, 関西女子短期大学紀要, 17, 33-48. 尾久裕紀（2014）親と子のメンタルヘルス, 関西大学経済・政治研究所セミナー年報 2013, 101-109.
尾崎康子・古賀良彦・金子マサ・竹井 史(2010) ぬりえの不思議　心と体の発達に見るその力, ぎょうせい.
島田由紀子・大神優子（2019）幼児の平面表現の特徴―色シール課題による性差の検討, 日本色彩学会誌 43（3）, 135.
島田由紀子（2017）幼児、児童のメソッドによる描画指導法の研究, 和洋女子大学紀要（57）, 87-96.
島田由紀子（2016）自由画にみられる性差の特徴 ―幼児の造形教育専門家による 7 つの評定項目から―
山田真世(2018)幼児期の描画における模倣の生起と表現変化, 福山市立大学教育学部研究紀要, 6, 115-121.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計8件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　2件）

１．著者名 中村光絵・島田由紀子・茂木克浩	４．巻 6
２．論文標題 保育者の幼稚園、保育所における描画指導―幼児の性別による影響―	５．発行年 2020年
３．雑誌名 和洋女子大学教職教育支援センター年報	６．最初と最後の頁 90-94
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 島田由紀子	４．巻 37
２．論文標題 色のレシピ	５．発行年 2019年
３．雑誌名 色彩教育	６．最初と最後の頁 31-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 島田由紀子・大神優子	４．巻 43（3）
２．論文標題 幼児の平面表現の特徴―色シール課題による性差の検討	５．発行年 2019年
３．雑誌名 日本色彩学会誌	６．最初と最後の頁 135-136
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 島田由紀子	４．巻 4
２．論文標題 自由画の色彩にみられる子どもの性差－画像編集ソフトを用いた使用色の検討	５．発行年 2019年
３．雑誌名 和洋女子大学教職教育支援センター年報	６．最初と最後の頁 83-88
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 島田由紀子	4．巻 3
2．論文標題 色のレシピ	5．発行年 2018年
3．雑誌名 色彩教育	6．最初と最後の頁 25-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 島田由紀子	4．巻 58
2．論文標題 幼児の自由画にみられる性差の特徴 －幼児の造形教育専門家による7つの評定項目から－	5．発行年 2018年
3．雑誌名 和洋女子大学紀要	6．最初と最後の頁 71-78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 島田由紀子	4．巻 3
2．論文標題 家庭における子どものお絵かき	5．発行年 2018年
3．雑誌名 和洋女子大学教職教育支援センター年報	6．最初と最後の頁 83-89
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 島田由紀子	4．巻 57
2．論文標題 幼児、児童のメソッドによる描画指導法の研究	5．発行年 2017年
3．雑誌名 和洋女子大学紀要	6．最初と最後の頁 87 - 96
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18909/00001409	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計15件（うち招待講演　0件／うち国際学会　1件）

1．発表者名 島田由紀子・大神優子
2．発表標題 幼児の平面表現の特徴―色シール課題による性差の検討
3．学会等名 日本色彩学会
4．発表年 2019年

1．発表者名 島田由紀子
2．発表標題 幼児の造形表現
3．学会等名 千葉県習志野市教育研究会
4．発表年 2019年

1．発表者名 島田由紀子
2．発表標題 保育に活かせる制作遊びの指導法を学ぶ
3．学会等名 千葉県市川市市川市公私立保育園研究会
4．発表年 2019年

1．発表者名 島田由紀子
2．発表標題 保育所保育指針に基づく乳幼児の表現遊び
3．学会等名 高知県教育委員会
4．発表年 2018年

１．発表者名 島田由紀子
２．発表標題 チェコ共和国の行事を活かした子どもの造形活動
３．学会等名 墨田区立曳舟幼稚園
４．発表年 2019年

１．発表者名 島田由紀子
２．発表標題 保育の中での絵画指導
３．学会等名 筑波大学子ども支援研究所
４．発表年 2019年

１．発表者名 島田由紀子
２．発表標題 幼児の造形活動
３．学会等名 墨田区立曳舟幼稚園
４．発表年 2018年

１．発表者名 島田由紀子
２．発表標題 保育に活かせる制作遊びの指導法を学ぶ
３．学会等名 市川市こども施設運営課市川市公私立保育園　保育士簡易保育園保育士　研修会
４．発表年 2018年

１．発表者名 島田由紀子
２．発表標題 幼児の製作遊び
３．学会等名 市川市教育委員会
４．発表年 2018年

１．発表者名 島田由紀子
２．発表標題 「主体的に学ぶ幼児の育成」～絵画・製作を通して～
３．学会等名 墨田区立幼稚園教育研究会
４．発表年 2018年

１．発表者名 島田由紀子
２．発表標題 幼児期における造形表現
３．学会等名 千葉地区夏期実技研修会
４．発表年 2018年

１．発表者名 有阪治、市川剛、小山さとみ、西連地利己、島田由紀子
２．発表標題 アンドロゲンの性役割、性志向への影響―おてんばな女児と先天性副腎過形成症女児での比較検討
３．学会等名 日本小児内分泌学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 島田由紀子　駒久美子
２．発表標題 保育者養成課程における表現教育に関する研究（６）
３．学会等名 日本保育学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 SHIMADA Yukiko
２．発表標題 Characteristics of Boys and Girls as Seen Through Motifs Depicted in Free Drawings of Children
３．学会等名 Asian Society of Child Care
４．発表年 2017年

１．発表者名 Ｙｕｋｉｋｏ　Ｓｈｉｍａｄａ
２．発表標題 Characteristics of Sex Differences in Free Drawings
３．学会等名 Asian Society of Child Care（国際学会）
４．発表年 2016年

〔図書〕　計2件

１．著者名 島田由紀子・駒久美子	４．発行年 2019年
２．出版社 建帛社	５．総ページ数 150
３．書名 保育内容表現	

１．著者名 茂木一司・手塚千尋・穴澤秀隆・塩川岳・赤木重文・島田由紀子・下原美保・住中浩史・茂木克浩	４．発行年 2020年
２．出版社 日本色研事業株式会社	５．総ページ数 33
３．書名 色彩ワークブック	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考